牧草と園芸

第十五巻・第九号

昭和二十八年五月十五日第三種郵便物
昭和四十二年七月一日（毎月一回一日発行）

雪印種苗株式会社

7

飼料作物の害虫（Ⅱ）
家畜ビートの害虫と防除

北海道農試畑作部　気賀沢和男

家畜ビートの害虫の種類は，甜菜と全く同様で100 余種が知られているが，北海道では，とくに，トビムシ，ヨトウ類，ヤガなどの根切類，線虫類の害が大きい。ここでは，ビートの生育初期の害虫の２，３をあげる。

1　アカザモグリハナバエ

６月中下旬になるとビートの葉に汚白色の袋状の喰痕がみえるようになる。

葉肉を喰い袋状になったところには体長８mm内外の長形の蛆が入っている。やがて，その蛆は（約10日で）袋状の喰痕からでて，地中で蛹となる。

ビートの初期生育期の被害は非常に大きく，生育の遅延が目立つが，ビートの生育中期以後はそれほど害は大きくない。

防除法　殺虫剤（塩素剤，燐剤）の0.02%液を６月上旬から10日ごとに３～４回散布すれば完全な防除ができる。

2．キボシマルトビムシ（ジノミ）

この虫は年中，いつでも発生しているが，ビートの稚苗期の害虫としてはもっとも恐るべきものの一つである。

体長1.5 mm位，やや球形で，紫黒色をしており，４月頃からでてきて，ビートの稚葉，または幼茎をかじり，そこからでてくる汁液を吸収し，点々とした白枯斑を作る。ひどくなると枯死をさせることもある。

この害虫は乾燥した日が連続すると発生が多くなり害も大きくなる。小さい虫であるが非常に活発で，人が近づくと跳躍器によって跳び逃げてしまう。

防除法　ビートの発芽直後から数回にわたりＤＤＴ（液剤は0.02～0.03%液，粉剤は2.5 %のもの）を散布する。

3．キタネコブセンチュウ

ビートがまかれて根が伸びはじめると，まもなく，根に体長0.4 ～0.5 mm位の小さな，細長い幼虫が喰い入る。幼虫の入ったビートの根の細胞は次第に大きくなり，それによって根の細胞が腫れ，球形あるいは紡錘形の瘤（ゴール）がみえるようになる。その瘤の中には幼虫や成虫がたくさんいる。幼虫が根に入って約４週間たつと成虫となる。成虫は洋梨型をした体長0.5 ～0.7 mm位で，たくさんの卵（１成虫が200 ～ 600 を産む）を産みだしている。

この頃になると瘤の表面に多数の新しい細根を生じる。被害のひどいときは，１株に数百個以上の瘤が密生していることがある。

防除法　線虫の加害の少ない禾本科の作物（麦，トウモロコシなど）を多く取り入れた輪作を行なう。この際，除草は充分に行ない（雑草でふえるから）畑の清潔を図る。

薬剤を用いて防除するときは，播種２～３週間前に，ＤＤ，ＥＤＢを深さ15cm位に注入（20～30ℓ／10a ）し，播種すこし前に充分なガス抜きを行なう。

アカザモグリハナバエの喰痕
老熟した幼虫が喰痕からはいだしている。

キタネコブセンチュウのゴール